

私と国有林

「山桜の群生を守って」

加治川さくらの里づくりの会 事務局 布川 功



国指定天然記念物「とちだいり椽平桜樹林」

国指定天然記念物「椽平桜樹林」の群生地大峰山（標高399.5m）は、新潟市中心街より北東へ約40kmの新潟県下越地方の新発田市に位置し、南北13kmで日本でも最も小さい楕円山脈の主峰の一つにあります。

この大峰山北側斜面の通称「大沢」と言われている沢を挟む一帯は「椽平」と呼ばれ、大峰登山道の途中にある「一本松展望台」からの眺めは、芽吹き始めた木々の色と山桜のコントラストが素晴らしい景観を見せてくれます。一説によれば、何万年前に自生した桜樹が老木となり枯れ、その根元から実生が芽吹き生長し、それを繰り返しながら長い年月の間に幾百種もの変種が生まれたと伝えられています。中でも「オオオクチョウザクラ」「カスミオクチョウザクラ」「オオミネザクラ」の三種は学名登録されており、これに隣接したエリア約73haを「ふれあいの森」と名付け、「下越森林管理署」と私たち「加治川さくらの里づくりの会」で平成12年「ふれあいの森における森林整備等の活動に関する協定書」を交わし、ボランティアを募り保護活動を開始しました。



作業に奮闘中



作業指示を真剣に聞くボランティア

この場所一帯は、戦前から昭和30年頃にかけて山桜を保護しながら燃料材として伐採され、また、炭焼きも行われ、結果として山桜にとって良い環境になったと思われず。しかし、近年は他の樹種が繁茂し山桜の樹に覆い被さるようになり、成木はもとより日も射さないため実生も育たないような環境悪化が危惧されるようになりました。一方で、私たちの会も高齢化が進み山での活動には限界があるとの意見もあり、平成17年秋の事業をもって一旦休止としました。その後、毎年椽平に入り現地の実情を写真に収め、新発田市役所や新発田地域緑化推進協議会総会の席で実情を訴えてきました。そして、平成22年6月には新発田市の担当者と椽平への視察調査の機会を得て、この年の10月中旬に再びボ



作業を終えて充実感に浸る一同(前列右から3番目筆者)

ランティアを募り、総勢40人の参加の下、山桜の保護活動を再スタートすることができました。下越森林管理署や新発田地域緑化推進協議会のご協力を得る中で、特に緑化推進協議会のスタッフの方々には、急斜面での作業に備え歩道を整備していただき、今後、この地の保護活動に明るい展望が開けた気持ちで一杯でした。平成23年には、6月と10月の2回に亘り、各方面からのご協力を得て無事に保護活動を終えることができました。今後、皆様のご協力の下、先人が苦勞されて国指定を受けたこの貴重な天然記念物の大峰山山桜樹林帯を加治川さくらの里づくりの会員の力を合わせて守っていかねければなりません。